

# 世の中が、明るくカラフルに見える手術？

Text by 福生吉裕

# 未病ケアで健康やかに

## ● 江戸時代のデジタル画

最近、江戸時代中期の絵師、若冲の作品『群鶏図』を鑑賞する機会がありました。鮮やかな赤と黒の色彩、大胆な構図、精緻な描写。そのカラフルさに圧倒され、まるで鶏の鳴き声が聞こえてくるかのようでした。羽は、下絵もなく一気に太さ0.2ミリメートルの線で描かれているといい、その精密さに驚かされました。

満84歳まで生きた若冲。さて、彼は何歳でこの絵を描いたのだろうか。さぞかし視力は良かったのだろうと思われます。

## ● カラフルでなくなる病気

高齢者に多い目の病気のひとつが「白内障」です。60代では70パーセント、70代では80パーセントの人がかかっているといわれています。

白内障は水晶体と呼ばれる目のレンズが濁ってくる病気です。この水晶体を構成する蛋白質であるクリスタリンというものが徐々に酸化され、変性することで、目に入ってくる光が屈曲したり、反射したり、網膜までうまく届かなくなることで見えにくくなります。蛋白質の変性とは、たとえば生卵を茹でると透明な白身が白くなりますね。これが変性です。いったん変性してしまった蛋白質はなかなか元には戻れないのです。

加齢が主な原因ですが、アレルギーで目を擦りすぎたり、ボクシングなどで目を物理的に傷つけたり、また糖尿病を患っていたり、ステロイドの薬の長期服用によっても白内障になりやすくなります。

## ● 白内障のチェックポイント

60歳以上の方で以下のような症状が3つ以上ある場合は、白内障の疑いがもたれます。一度、近くの眼科医に相談してください。

- ① モヤや霧がかかっているように見える
- ② 夜間では信号が眩しく見える
- ③ 周りが薄暗く見える
- ④ 最近、視力が落ちた
- ⑤ 左右で見える明るさが違う
- ⑥ 老眼鏡をかけてもよく見えない

## ● 手術を受ける前に

さて、白内障の治療ですが、残念ながらあまり効果的な薬(目薬も含め)はないのが現状です。しかし、手術は進化してきました。目の手術と聞くと怖いようですが、最近は安全で時間的にも早くできる手術が開発されています。医療技術の進歩です。

手術では、濁った水晶体を取り出し、人工の眼内レンズに取り替えます。しかも、折りたためるレンズも登場してきているので、傷口も3ミリメートル程度ですむそうです。片目の手術時間は15~20分程度で終わり、日帰り手術も増えてきております。

ひと昔前に比べると雲泥の相違があります。

手術を終えた患者さんは「世の中が、明るくカラフルに見える」と言います。

詳しくは“熟練の評判のいい眼科の先生”に相談してみてください。



ふくお・よしひろ 日本未病システム学会理事長。(一財)博慈会老人病研究所所長。少子高齢社会における未病ケアシステムの構築を提唱している。専門は「高脂血症」「動脈硬化」「認知症」。現在は『未病と抗老化』(博慈会老人病研究所)編集長。著書に『見た目で見える病気が分かる』、共著に『セルフ・メディカ』『未病息災』など多数。